

教祖は私たちのそばにおられる



まだ陽の上がる前、教祖のお出ましをお迎えするため、教祖殿へと足を運ぶ。

真 朋

発行所
天理教芦津大教会
〒546-0003
大阪市東住吉区
今川8丁目6番32号
電話 06 (6702) 1980
FAX 06 (6700) 1854
Eメール shinmei@ashitsu.or.jp
印刷所 天理時報社

さあ、これまで住んで居る。何処へも行
てはせん、何処へも行てはせん。日々
の道を見て思やんしてくれねばならん。

明治23年3月17日

教祖は、私たちにとって決して遠く離れた存在では
ありません。お姿を私たちの目で拝せないだけで、今
なお御存命で導き、励ましてくださっています。そ
して、教祖のことを思えば思うほど、私たちは教祖を
身近に感じることができるのです。

物事が不思議とうまく進んだとき、「教祖が導きく
ださったのだ」と親心を実感する。おちばに帰り、教
祖殿に額づく、「よう帰ってきたなあ」と声を掛けて
くださったような温もりを感じる。大節や人生の岐路
にさしかかったときでも、「教祖がそばにいてくださる
きつと大丈夫」という安心感を覚える。何より、おさ
づけの取り次ぎに鮮やかな理をお見せいただき、感激
と共に、教祖が御存命であられることを確信する。

4年後、私たちは教祖の御年祭を迎えます。どんな
ときも、どんな場所でも、何が起こつても喜び勇んで
通られた教祖のひながたを頼りに、心を澄み切り、喜
びと勇み心を湛え、人だすけに励ませていただきたい。
そして「教祖は御存命のまま、いつもそばにいてくだ
さるのだ」と、何度も教祖の温もりを実感して涙する、
そんな毎日を送りたいと思います。

正面四方

「恩を返してもら
おうと思うなこ
ちらが恩返しした
のである」。ある
日の「陽気ひめく
り」にこう書かれ
ていた。

私たちは今世の
恩はよく覚えていたが、前世
前々世まで遡ると、誰も覚え
ていない。誰かのために何か
をさせてもらったとき、これ
は連綿と続く生まれ替わりの
中で、その昔お世話になった
恩を返させてもらっているの
だと思えば、感謝と喜びが
自然と湧いてくる。「これで
少しながら恩返しができまし
た、ありがとうございます」
と感謝の心になれたら、相手
に求める事は何もなくなる。

いま子育てに苦労されてい
る方は、その子供が前世は親
で、自分が子供として世話を
かけたのだ、と考える。苦労
の道中を通つたのに報われな
かった方は、今世でやっと恩
返しが終わるのだ、来世が楽
しみだ、と考えると、不足心
が喜び心に変わってくるので
はないだろうか。

(庄)

《立教184年 12月次祭 挨拶》

明年も一手一つに心結んで

大教会長 井筒梅夫

今年は眞明組講名拝戴140周年の節目の年として、感謝と報恩の心で時旬にふさわしい成人を期して、たすけ一条の歩みを進めてまいりました。未だコロナ禍は収まってはいませんが、感染状況に注意しつつ、できる範囲で活動を再開できた年でもありました。少年会総会に代えて実施した「おつとめの集い」を皮切りに、青年会、婦人会も対象の制限はありましたが、それぞれ総会を開催しました。「道の後継者の集い」も参加者やスタッフが大勢集まって、久々の賑やかな行事になりました。

また各々の教会でも講社祭、団参など、昨年と比べて充実した動きが戻ってきているように感じます。更には節目の年を記念して実施した、10月の記念秋季大祭と記念おちば帰りに、ほぼ2年ぶりに帰って来られた教会長さんや信者の方が大勢おられ、その喜びを分かち合っている姿が印象的でした。おちばにおいても先月から月次祭の昇殿参拝者数を倍にしてくださいました。

この一年、それぞれにできたこともあれば、届かなかったことでもあると思います。御守護に喜び、節に悩んだ一年でもあったと思います。お互いにこの一年の我が心の道と信仰実践を振り返って、次の年に活かしたいものです。

後8日で立教185年を迎えます。前真柱様は新年を迎えるにあた

って、「来年は今年より少しでも成人させていたきたい。これが心定めでありたい」とよく仰っておられました。

成人とは、日々月々年々とをやる思いに近づくことであると教えられます。そのための努力をすることが成人への心定めであります。をやる思いに近づくには、素直な心で教えを求めること、そして純粋な気持ちで道を通る他ないと思います。自分の考えや都合で、親神様から教えていただいている教えや教祖のひながたを疎かにしてはいないだろうか。これはお互いの反省材料であります。

教祖のこんな話があります。右手を脱臼した子供が祖母に連れられてお屋敷へ帰ったときに、教祖がその子供に湯茶碗を指さして「それを持ってきておくれ」と仰った。その子供は右手が痛いので左手で持とうとすると、教祖は「ぼん、こちらこちら」と右手をお上げになったので、子供心の素直さで右手で持ったところ、その右手の脱臼は御守護いただいていた。という話です。

ひながたの道50年を見れば、教祖のお言葉に素直に従った人はたすけていただき、この道について成人をしておられますが、一方で教祖のお言葉に反対した人は道から切れてしまっています。

おさしづに、

心の温和おとなし、何も言わん素直の心が、順序の道である程に。

明治33年1月25日

とあるように、素直な心で教えを身に付けることが成人に繋がってゆくのであります。また、

純粋一つから始めば、純粋一つの道と成る。

明治23年5月15日

とありますように、純粹な気持ちで道を通ることも大切です。純粹とは混じり気のない、澄み切った状態です。この純粹を汚すのは塵^{ちり}や芥^{あくた}、つまり心のほこりです。毎日の生活の中でほこりをおさぶることは度々とあるでしょう。日々にほこりを払い、胸の掃除に励んで、心を澄み切る努力をしなければなりません。

教祖は、

「心の澄んだ人の言う事は、聞こゆれども、心の澄まぬ人の言う事は、聞こえぬ。」

『稿本天理教教祖伝逸話篇』176 心の澄んだ人

と教えてくださいました。心の澄んでいない人が何を言っても、何を願っても、教祖のお耳には入らない。しかし、心の澄んだ人の言うことは、教祖はしかとお聞き届けくださるのです。神一条に心を澄み切る努力をし、純粹な気持ちで道を通ることが成人です。

来る立教185年は、その翌年から始まる教祖百四十年祭三年千日の年祭活動に臨むための大切な下地づくりの年になります。日々に素直な心で教えを求め、純粹な気持ちで道を通る努力を怠ることなく、をやの思いに少しでも近づかせていただけるよう、一層の成人への努力を心に定めて新年を迎えさせていただきたいと思っています。

今年は、この一年を講名拝戴の節目の年として真心のご丹精を頂き、誠にありがとうございました。明くる年も芦津に繋がる一同、一手一つに心を結んで、たすけ一条の道を勇んで歩ませていただきます。本年一年、誠にありがとうございました。共に良い年を迎えさせていただきます。

(要約)

立教百八十四年 十二月月次祭祭文

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、天理教芦津大教会長 井筒梅夫、慎んで申し上げます。

親神様の深き親心と尽きせぬ御守護にお護り頂いて、日々を結構にお連れ通り下され、成人の道を恙なくお導き下さいます中に、今日は早くも十二月の月次祭を勤める日柄となりました。

思い返せば今年は、眞明組講名拝戴百四十周年の年として、感謝と報恩の心でたすけ一条に勤めさせて頂いた年でございました。コロナ禍が収まらない状況の中を、各々が時句に相応しい成人を求めて、今の道は初代や先人の御苦労と御丹精の賜物とお礼を申し上げ、その道すがらを手本に、一人ひとりにできる道の歩みを進めてまいりました。そしてこの節目の年を一手一つに心勇んで歩ませて頂きたいと、時句の道の上に励んで参りましたが、遅々たる歩みにてまだまだお目だるところを、おらかな御心にお抱え頂き、日に月に、数々の結構を頂戴し、今年も恙なくお連れ通り下さいました御守護の程は、思えば誠に勿体なき極みでございます。

只今からお許しを頂きました今日の吉日に、役目にあずかる者一同、心を揃え座りづとめ、陽気てをどりを勤めて、本年納めの月次祭を執り行わせて頂きます。御前には年の瀬も厭わず参らせて頂きました芦津の道の子達が、共にこの年に賜りました厚き御恵みに御礼申し上げます、つとめに勇む状を御照覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいますよう御願い申し上げます。

私共をはじめ、教会長、ようばく一同は、過ぎし一年を振り返り、我が心と足取りを思索して、足らぬところは補い、届かぬところは継ぎ足して、一層の成人を期してたすけ一条に働かせて頂く所存でございます。何卒至らぬところは幾重にもお仕込み下さいまして、よろづたすけの上に自由の御守護を賜り、次の成人の塚へ向けて成人の足取りを一步一步着実に進ませて頂けますようお導きの程を、御願い申し上げます。茲に立教百八十四年納めの月次祭に当たり、重ねて今年一年の御礼を申し上げ、併せて来年も変わりなくお連れ通り下さいますよう、一同と共に慎んで御願い申し上げます。

《立教184年 12月月次祭 神殿講話》

信仰は実践実行

―チャンスを活かそう―

役員 岩切正義

今年も新型コロナウイルスに悩

よふきづくめの心なるよふ

十四号 24

まされた一年だったように思います。今年に入ってから、行事が中止になったところもあれば、感染対策をしながら縮小して行事が行われたところもありました。

と、心を入れ替えて陽気づくめの心にならなさい、と仰せくださる。それはなぜなのか。

月日にわにんけんはじめかけたのわよふきゆさんがみたいゆへから

十四号 25

おふでさきに、
せかいにハこれらとゆうているけれど
月日さんねんしらす事なり

十四号 22

とあり、コレラとコロナは違いますが、同じ感染症です。月日が残念だと仰る。何が残念なのか。

と、陽気ぐらしを望まれて人間を創ったからであり、皆が陽気ぐらしをしないのが残念なんだと思われているということですよ。

せかいちうどこの人でもをなぢ事
いつむばかりの心なれとも

十四号 23

と、世界中、心のほこりを積んで、陰気になっている。さらに、

これからハ心しいかりいれかへて

少なくなっていることは良かったことだと思います。そのコロナ禍の中で、世界中の

人が注目した東京オリンピックが開催されました。開催にあたっては賛否両論ありましたが、選手が一生懸命競技する姿に多くの感動を覚えました。特に、柔道で天理大学出身の大野将平選手のオリンピック2連覇はお道を信仰している者にとってもとても嬉しく、尚且つ、優勝後のインタビューで天理大学のお陰と仰ってくれたのにさらに喜びが増しました。オリンピックの開催で皆が少しでも感動できたことは良かったことだと思います。

おちばを賑やかに

今年はコロナの影響で、大教会の諸行事も中止、縮小される中で、10月23日には、内統領・宮森先生の御巡教を頂き、「眞明組講名拝戴140周年記念秋季大祭」が執り行われ、24日には、「記念おちば帰り」がございました。11時に皆で神苑内でおつとめを勤めることができ、おちばを賑やかにすることができました。

このコロナ禍で全てが自粛ムー

ドの中、感染対策を取りながら、どこかでやはり動き出さなければならぬ。全教に先駆けて芦津大教会が動いたことは、とても意義深いことでした。

九州豪雨災害

コロナが2年前から流行り出しましたが、お道の者にとっても、信者さんの所に行けない、月次祭に参拝に行けない、布教ができない。特に、神名流し、路傍講演、戸別訪問などは一切できなくなりました。もちろん布教の仕方はこれだけではありませんが、私は日常、今言ったような布教をしていますので、布教ができなくなること、毎日が何か物足りないものになりました。

そんな時、令和2年7月6日に九州豪雨災害が起こり、私がお預かりしている四ツ山分教会周辺で大変な水害が起きました。

その日、私は部内教会の月次祭で熊本県宇城市にいましたが、雨は降っていませんでした。家内から、大牟田は凄い雨が降っている



と連絡がありました。特に気にしてはいませんでした。祭典が終わって、帰路につきましたが、教会まであと 20 分くらいの所で、雨が強くなってきました。車のワイパーを最大にしてようやく見えるような雨の降り方になりました。そして教会まであと 1 km で道路が通行止めになりました。

脇道に入ると濁流が流れており、ドキドキしながら恐る恐る教会に向かいました。あと教会まで 400 m という交差点で、車のドアのすぐ下まで水が来ました。慌ててエンジンをつかし、その場を抜けました。心臓がバクバクしました。

この水害で、大牟田市内で約 1 千台の車が水につかってダメになったそうです。その日、高校生の息子は、学校から帰ることができませんでした。

翌 7 日、水は少し減りましたが、辺り一面が湖のようになっていました。自衛隊が教会の前に陣取り、ゴムボートで救助活動が始まりました。

私も近くの人の救出で、腰まで水につかりながら、年配のご婦人の手を引いて避難させたり、救出された方々に教会でシャワーを浴びてもらったり、ご飯を食べていただいたり、老人をおんぶして避難場所に向かうバスに乗せたりしていました。8 日が月次祭ですが、7 日は準備がほとんどできませんでした。

8 日の月次祭には、水もある程度引きましたので、信者さん方も集まり、無事におつとめを勤めることができました。その日の直会はないにして、祭典後は被害にあった所を回りました。

被害にあった家の親族や友人な

どたくさんの方が後片付けの手伝いをしていました。その中に、多くの中学生、高校生がボランティアに集まっていました。

そんな中、近所を回っていたら声を掛けられました。見れば、小学校のとき、おとまり会に参加していた女の子で、高校生になってボランティアをしていました。他にも、おとまり会に参加していた子がボランティアをしている姿を見て、本当に嬉しくなりました。

9 日には、大牟田支部長から声が掛かり、四ツ山分教会を拠点に活動をしました。その日の夜、腰までつかりながら救助したご婦人さんから連絡が入りました。

最初は避難所に避難していましたが、水が引いたので家に戻ったそうです。1 階は水浸しになったので 2 階で寝起きをされたそうですが、臭くて寝られない。どうにか助けてくれませんか、とのことでした。

翌日の夕方、そのご婦人さんのところに行き、1 階の畳や家具類など全て出しました。その後も家

財道具を外に出したり、後片付けをお手伝いし、最後に高圧洗浄機できれいにし、大変喜んでいただきました。

テレビを通してのにいがけ

ひのきしんを始めて 9 日目の夜の事です。そのご婦人さんが、夕方 4 時のテレビの生放送に出ていました。災害の後、地元のボランティアの方にいち早く来ていただいたという理由で選ばれたようです。そのインタビューでご婦人は「大変でしたが、民生委員をされている天理教の方が、天理教の方を何人も連れてきて、助けてくれました」と言ったのです。リポーターが慌てて「地元のボランティアの方ですよね」と聞くと、「いいえ、天理教の方が全部してくれました。天理教は神様です」と言ったんです。助けてもらったことがよほど嬉しかったのでしよう。

生放送なので止めることができません、そこで中継は終わりました。ローカルなニュース番組でしたが、

「天理教に助けてもらいました」という言葉がテレビで流れたので、すから、それを観ていた人や教友も驚いたと思います。

私はその時間、ひのきしんをしていたので、タイムリーには観れませんでした。が、ニュースを見た教友から、スマートフォンにその動画が送られてきました。

またインターネット動画のコメントの中で、「その民生委員は四ツ山の岩切先生です」と書いてくれた方がいたため、おかげで知り合いかたからさんのメールがきて、教区の主事先生からも「よくやってくれた」と言っていたいただきました。

私は、コロナ禍でなかなか外に向けた布教ができませんでしたが、親神様、教祖がテレビを通して、にをいがけしてくださったと思います。本当に有り難かったです。

社協との関わり

その後、関わりをもったのが社会福祉協議会（社協）です。突然、社協から、「ご相談がある

のですが」と連絡が入りました。社協は週に1度、公民館で無料の塾を開いていましたが、公民館が水害で使えなくなったので、2カ月ほど教会を使わせてほしい、という相談でした。

普段、私たちがにをいがけに行っても、なかなか教会に人は来てくれませんが、向こうから教会に来てくれるわけですから、断る理由がありません。「どうぞ、使ってください」ということになりました。

そして、その塾を担当していた若い女性職員2人が、教会をとても気にいってくれました。その後、公民館が使えるようになってからも、そのまま教会を使わせてほしいと、上司にお願いしたそうです。彼女たちも親神様、教祖の温かみを感じたのでしょうか。

コロナになる以前にも、教会に初めて来られた方の中には、「神殿にくると心が落ち着きますね」と言ってくださった方がおられました。その中から今、月次祭のおつとめに出てくださっている方もお

られます。私たちもご本部の神殿に行くくと落ち着くでしょう。教会は、おちばと繋がっているわけですから、落ち着く場所なのです。ですから、私たちは一人でも多くの人に教会に来ていただくように、また一人でも多くの人を教会に連れて行くようにしなければなりません。

奥さんが輝いている

教会では、コロナ禍になる以前は、月に1度、地域の子供を集めて「教会おとまり会」をしていました。コロナ禍になってできなくなり、何かできないかと考えて、「こども食堂」を実施しました。

水害に遭ってから、こども食堂は実施していませんでしたが、社協の方と知り合いましたので、こども食堂の話をしましたら、「何かあったら、いつでも相談してください」ということでした。それから、ときどきお米や野菜、お菓子を頂いたりしています。

その後、教会では感染対策を取りながら、地道にこども食堂など

を実施していましたが、思うように人が集まりません。コロナの影響もあると思いますが、どうしてかなと考えていました。芦津の部内教会でも、こども食堂や地域食堂を実施している教会がかなりあり、盛んにしている教会もあります。私の教会と、人がたくさん寄る教会とは何が違うのだろうか、と考えました。

そして、あることに気が付きました。人がたくさん寄る教会は、会長は大会や教会の御用をしつかりして、こども食堂は奥さんに全て任せている。奥さんは、「皆に喜んでいただくにはどうしたらいいだろうか」と、皆と協力しているアイデアを出しながら、一生懸命しているのです。奥さんが輝いているのです。

これが大切なのだと思います。これまでは何でも私が主導でしてきたのを反省しました。9月から11月まで修養科教養掛で教会を空けましたので、これを機に、妻主導に変えることにしました。12月にもこども食堂を実施しま

したが、有り難いことに少しずつ
人数が増えてきています。

即実践実行

私どもの教会は、水害を通して、
地域との繋がりをお与えいただき
ました。このチャンスはどう活か
していくかは、私の努力次第だと
思います。

私たちは、教祖からいろいろな
チャンスを頂いているのです。例
えば「こども食堂」というチャン
スを与えていただいている教会も
あるかもしれませんし、他のこと
でチャンスを頂いている信者さん
もおられるはずですよ。このチャン
スをどう活かすか、それをしっか
り考えましょう。

こども食堂といっても、月に1
回のことだけで、後は地道な毎日
ですよ。しかし、何か楽しみがある
と勇んできます。うまくいかなか
ったら、また他の手段を考えたら
いいのです。何より、地域に貢献
すること、ようばくという自覚を
持つて地域にしっかりと溶け込むこ
とが、これからは大切なものではな
いでしょうか。

今年が眞明組講名拝戴140周年の
年でしたが、どの教会もおちば帰
りを中止したり、計画さえしない
中で、10月に芦津大教会が全教に
先駆けておちば帰りを実施したこ
とは、とても意義深いことです。
それは初代会長様の信仰に繋がる
からです。

初代会長様は、おたすけとあら
ばすぐ行き、何かあるとすぐおち
ばに帰られた。信仰は、即実践実
行ですよ。

その信仰を受け継ぐ私たちは、
布教や人だすけのやり方はそれぞ
れ違っても、コロナ禍の中で自ら
考えて、喜びをもって、まずは動
くことが大切ではないでしょうか。
教祖は、人をたすける、人を喜ば
せることに對して、必ず背中を押
してください、導いてくださいま
す。

これから、私たちの活躍の場が
どんどん広がるはずですよ。いろん
なアイデアを出して、勇んで、ま
ずは動いていこうではありません
か。

(要旨)

十二月月次祭 祭典役割

胡 三 味 琴 弓 線			小 太 拍 ち 鼓 すりがね 鼓 子 木 ちゃんぽん 笛			地 方			てをどり				扨 者		扨 者		祭 主			
瀧 本 晶 子			井 石 井 竹 岡 山 筒 川 筒 内 島 本 敏 道 文 義 秀 義 成 夫 夫 忠 男 範			奥 守 湯 田 田 川 眞 清 正 治 一 圀			竹 井 会 今 瀧 大 内 筒 長 川 本 教 艶 ち 夫 政 眞 二 会 子 さ 人 治 郎 会 長 夫 治 郎 会 長			座りつとめ		山 田 道 弘		守 田 清 一		大 教 会 長		
河 合 遊 喜 恵			木 中 河 立 梶 西 村 村 端 花 川 本 真 俊 芳 善 和 義 次 和 雄 三 隆 之			立 吉 加 花 田 世 善 裕 田 文 和 洋			松 吉 榎 蔑 瀧 川 森 田 理 内 本 畑 明 幸 恵 庄 澄 博 美 子 子 浩 司			前 半		賛 者		賛 者		指 図 方		
花 岡 由 紀 子			吉 石 新 今 瀧 奥 田 川 居 川 本 田 裕 健 里 聖 一 正 樹 郎 実 一 儀			川 湯 岡 畑 川 本 正 正 久 博 信 昭			河 山 梶 村 花 樋 合 本 川 田 岡 川 ふ 広 文 光 忠 泰 み 子 子 伸 和 士			後 半		西 本 興 正		浜 田 宣 郎		奥 田 正 徳		
															伝 供		瀧 本 眞 二 郎		献饌長	
在 籍 者 一 同																				

喜びの奉告祭

移転奉告祭

入江分教会

入江分教会（葭内浩会長・大阪府枚方市）では、12月12日、大教会長夫妻をお迎えして、神殿移転奉告祭を執り行った。随行は、瀧本眞二郎役員。

入江分教会は昭和20年3月の大阪大空襲により全焼するという大節から昭和23年に西今川で復興。

その後、平成11年に天王寺区、平成20年には大教会飛地境内地へと移転が続いたが、76年ぶりに入江分教会の土地建物に親神様、教祖にお鎮まりいただくこととなり、11日に鎮座祭が勤められた。

奉告祭当日、午前11時、葭内会長の祭文奏上に続いて、大教会長が挨拶。「信仰は御守護を御守護と感じることから始まる。そして、頂戴する御守護を御恩と感じて御恩報じに励み、陽気ぐらしを实践する場所が教会。自信をもって教会に来てくださいたいという教会に

なってもらいたい」と期待を述べられた。また「眞明組の頃に初代の葭内先生にたすけられた方が大勢おられる。先頭を切って通られた初代の後にしっかりとついて歩んでもらいたい」と話された。

陽気におつとめが勤められた後、葭内会長が挨拶。「移転を機に、教会内容の充実に向けて、一人でも多くの方に教会に来ていただくように、にをいがけ・おたすけに精いっぱいつとめさせていただきます」と決意を述べた。



立教百八十五年 元旦 祭 祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、天理教荻津大教会長 井筒梅夫、慎んで申し上げます。

親神様の深く厚き親心と限りなき御守護により、茲に芽出度く立教百八十五年の新春を迎えさせて頂き、一同寿ぎと共に慎んで御礼申し上げます。

顧みますれば過ぎし一年、眞明組講名拝戴百四十周年の年として、コロナ禍の収まらぬ中を、各々が時句に相応しい成人を求めて、たすけ一条に一手一つに勤め励まして頂いてまいりましたが、温かき親心にお抱え頂き、数々の御恵みを賜りまして、日に月に恙なくお連れ通り下さいました言い尽くせぬ御慈愛の程は、誠に有難く勿体ない極みでございます。元旦に当たり、言改めて御厚恩を御礼申し上げ、併せて本年も変わりなきお導きをお願い申し上げます。只今から役目にあずかる者一同、勇み心も一入に、鳴り物の調子を揃え、座りづとめ、陽気てをどりを勤めて、今年の初づとめを執り行わせて頂きます。御前には年の明けるのを待ちかねて参らせて頂きました荻津の道の子供達が、共にお歌を唱和し、同じ思いに伏し拝む状を御覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいますよう御願ひ申し上げます。

改まる年と共に、私共をはじめ荻津に繋がる一同は、昨年より少しでも成人させて頂けるようその努力を重ね、心づくり理づくりに励んで、たすけ一条に眞実を尽くす所存でございます。何卒変わらぬ御守護にお連れ通り下さいまして、成人の道を勇んで歩ませて頂けますよう、年の初めの御礼に併せ、一同と共に慎んで御願ひ申し上げます。

青年会長様御臨席 芦津分会総会に向かって



Seinenkai
Ashitsu
Bunkai

青年会芦津分会委員長

井筒敏成

天理教青年会は「世界たすけへの挑戦」を基本方針に定め、中山大亮・青年会長様の仰る「世界の至る所で、その国や地域の社会問題の解決に力を注ぎ、そこで動くあらきとりよう一人ひとりが、教祖の教えを伝え、人の心をたすける」というビジョンに向かって、自分にできるおたすけに動き出すことを活動目標に、様々なことに挑戦しています。

そんな中で、本年、芦津分会は青年会長様の御臨席を賜り、芦津分会総会を開催させていただくという、分会にとって大きな旬を迎えました。大勢の会員が寄り集い、青年会長様の思いに一人ひとりがお応えさせていただいて、青年会長様にお喜びいただき、ご安心いただけるような総会にさせてもら

いたいと思います。

世界へ躍動、日々成人

この御臨席総会を迎えるにあたり、芦津分会では、先ずは自覚をもつて一歩踏み出すこと、とにかく動くということが大事だということから、総会へ向けて、「世界へ躍動、日々成人」とスローガンを定め、活動目標として、「身近な世界に心を配り、自分にできるおたすけに動く」「会員同士の繋がりを深め、会活動の充実を目指す」「自



日帰りでのひのきしん隊に入隊

らの徳分に気付き、お互いに認め合う」「日々にかしもの・かりものを感じ、感謝の気持ちを伝える」「人のたすけを願い、おつとめをつとめる」の5つを定め、勇んだ活動に取り組んでいます。

そんな中、新型コロナウイルスの感染拡大によって活動の制限を余儀なくされ、会員同士が関わる機会も少なくなりましたが、ひのきしんやオンラインでの行事など、できることから活動を進めてきました。今後、まだまだ先を見通しづらい状況ではありますが、できることを模索して活動を展開していきたいと思っています。

大きな旬に一手一つに

一昨年、昨年と思うように動けない中で、今年の御臨席総会を迎えるのは不安もありますが、芦津



コロナ禍の中、オンラインでの行事を定期的に開催

分会が丸となり、この大きな旬に向かえば、必ず良い方向にお導きいただけると信じて、御臨席総会に向かって一手一つに邁進していきたいと思っています。

そして、この御臨席総会がゴールではなく、青年会長様より直接お言葉をいただいて、をやるの思いを受け、次の成人の

塚である教祖百四十年祭の年祭活動により一層の勢いと勇み心を持つて向かいたいと思います。御臨席総会に向けて、私ども芦津分会が強い思いをもち、会員の方々に声を掛けて、共に育つ努力をさせていただくことはもちろんですが、教会長様方を始め、芦津に繋がる皆様方の力強い後押しを頂戴したいと思っています。どうか、次代を担う青年会員の丹精に、また青年会活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



餅つきひのきしん

昨年12月27日、詰所で餅つきひのきしんが行われた。

昨年はコロナ禍でお節会が中止になったため、餅つきも中止となった。今回はご本部の元旦祭に鏡餅をお供えすることとなり、2年ぶりの餅つきとなった。

お供えする鏡餅は、2升5合の餅を4つ合わせて1つにした大きなもので、直径約80センチ、重さは約20キログラムにもなる。機械を使うことなく、昔ながらの杵と臼を使用して、人力ですべてつき上

げる様子は大変賑やかで勇ましいもので、各教会から老若男女問わず、約50名がひのきしんに参加した。

この日つき上げた鏡餅7枚は、12月30日にご本部神殿に運び込まれ、上段の四隅に積み上げられた。正月三が日にお供えされた鏡餅は、1月4日の「鏡開き」で小分けにされ、おさがりとしておぢばへの参拝者や各直属教会に下付された。

教務部報

修養科教養掛 (12月)

井筒 文夫

教養掛

河合 善洋・村田 光伸
井筒ちぐさ

教会長資格検定合格

小川 正弘 (加津佐)
梶川 芳征 (本津)

立教184年12月17日教会長資格検定講習会第117回を修了し、翌18日検定合格されました。

教人登録

小川 正弘 (加津佐)

立教184年12月4日

教人資格講習会第117回

山田 博敏 (本津)

立教184年12月11日

修養科第964期修了

齊藤 涼子 (高 清)
立教184年12月27日

三日講習会Ⅲ修了

三原 孝文 (芦明眞)
立教184年12月5日

おさづけの理拝戴《11月》

杉下 海生 (北 地)
水田 祐子 (末 宝)
洲上三佐子 (東布施)
森 奏恵 (芦 南)
井内 智大 (明 高)
山崎 義志 (芦日眞)
立光 彩花 (島 原)
(拝戴順 7名)

初席《11月》

(1名) 順世、鳥栖、荻田町
(順序運びより 3名)

学生生徒修養会大学の部

第1回: 3月2日(水) ~ 6日(日)

第2回: 3月8日(火) ~ 12日(土)

(いずれも4泊5日)

詳細は芦津学生担当委員会まで

(話所 0743-62-0033 木村・奥田)



学修大学の部 HP

月例統計 (自令和3年1月1日) 至令和3年11月30日)

項 目 名 称 () 内教会数	初 席	の お 理 さ 拝 戴 け	修 養 科 修 了	教 人
大 教 会 (1)	11	4	2	
東 津 (23)	5	2	3	2
吉 野 川 (29)	2	6		
島 原 (16)	3	8		
日 方 (15)	4	7	2	
稗 島 (7)	4	2	4	2
本 津 (2)				
日 始 良 (5)				
津 和 (12)				
門 司 (6)	2			1
當 別 (6)				1
大 沖 島 (26)	5	9	7	
尼 崎 (2)		2		
四 ツ 山 (5)			1	1
大 冠 (2)				1
島 下 山 (1)				
天 保 山 (3)	1			
青 木 (1)				
芦 浪 (1)		1		
甲 邊 (1)	1	1	1	
芦 華 (1)				
天 津 (1)				
入 江 (1)				
豊 野 (1)				
紀 周 (3)	7	1		
勝 明 (1)				
神 の 島 (1)				
兵庫眞洲 (1)	1			1
芦 ノ 郷 (2)				
本 明 勇 (2)				
明 道 (1)		1		
芦 東 (1)				
和 鎮 (3)		2		
神 滝 本 (1)				
芦 明 徳 (1)	1	1		
真 明 彰 化 (2)				
本 氣 (2)				
芦 明 照 (1)				
真 伯 (1)				
合 計 (209)	47	48	20	9